



みんなでつくるう！ 賃上げが 当たり前の社会！

連合は2月27日、「2025 春季生活闘争 連合全国一斉アクション 2.27 中央集会」を開催した。日比谷野外音楽堂に約1700人（情報労連から約70人）が結集し、春闘要求の実現へ向けて決意を固め合うとともに、銀座をデモ行進して、賃上げの必要性と労働組合の存在意義をアピールした。



集会の冒頭あいさつした連合の芳野中央闘争委員長は、「昨年は33年ぶりの5%賃上げが実現したものの、生活向上を実感するには至らず、消費は低迷をしている。賃上げの流れを働くすべての仲間に波及させ、新たなステージを定着させるためには、今がまさに踏ん張りどころだ。そのためには、企業規模間の格差是正に向けた適切な価格転嫁の徹底が不可欠だが、コスト全般の転嫁率は5割程度、一昨年に出された労務費の価格転嫁のための指針の認知度も未だ半分という状況だ。大手企業は自らが価格転嫁に努める必要があり、中小企業は臆することなく、発注企業に価格交渉を申し入れよう」と訴えた。

集会では、立憲民主党の野田代表と国民民主党の古川代表代行があいさつ。野田代表は、「賃上げの定着と格差是正の真価が問われる春闘。政治から全面的なサポートをしていきたい」と述べた。集会では、清水中央闘争事務局長が情勢報告をした後、組織拡大に向けての決意表明として櫻田あすか組織委員会委員長（サービス連合会長）が、春闘と一体的に組織拡大に取り組む重要性を訴えた。集会では、「組織の総力を結集し、最後の最後まで、ともに闘い抜こう！」などとする集会アピールを採択した。集会参加者は、続いて銀座をデモ行進し、賃上げの必要性と労働組合の存在意義をアピールした。

（写真上）集会での団結ガンパロー、（左下）銀座方面へデモ行進、（右下中段）あいさつする芳野中央闘争委員長、（右下下段）衆参両院へ要請

■ 衆参両院前で要請行動

連合は、中央集会の前段で、立憲民主党・国民民主党への要請行動を実施した。行動には約100人（情報労連から4人）が参加。衆議院および参議院前で、両党の代表に要請書を手渡した。要請書では、①現下の経済・社会情勢を踏まえた2025年度予算編成実現②価格転嫁や取引の適正化につながる諸施策の実効性の向上、③公的年金制度改正や社会保障サービスを担う人材の処遇改善など7項目を要請した。

また、有楽町マリオン前で組織拡大の取り組みの一環として街宣行動も実施した。